

『「渋沢栄一翁と論語の里」整備活用計画』に関するパブリックコメントの実施結果について

市では、「渋沢栄一翁と論語の里」整備活用計画について、H26.1.17 からH26.1.28 までに、市民の皆さまから意見を募集しました。その結果、3 人の方から 11 件の意見が寄せられました。いただいた意見及びこれに対する市の考え方は以下の通りです。

No.	ページ・項目	ご意見	市の考え方
1	◆1 ページ 計画の概要	今年六月に世界遺産登録が期待される「富岡製糸場と絹産業遺産群」の一つ、伊勢崎市境島村の「田島弥平旧宅」が余りに地理的に当市に近接している事と都内からの玄関口として花園インターを有している立地条件を最大限有効活用する考え方が、「中の家」や「惇忠旧宅」保存改修計画に対する力の入れ方と比較しますと、幾分希薄な感は否めない気が致します。	本計画は、計画対象エリアである八基地区周辺で、計画期間内（5 年間）で取り組むことを整理したものとなります。 しかしながら、本計画における取り組み実施においては、関連する事業について、富岡市や伊勢崎市などと連携を図っていきたくと考えております。 また、花園インターについても、広域的交通の要所として考慮してまいりたいと考えております。
2	◆37 ページ 市民意識 ◆64 ページ 住民との協働	現状把握の中に、「自治会参加意識が高い一方で、ボランティア活動への意識が低い」との記述が見られますが、具体的にはどういう事なのかイメージが掴めません。 「選挙意識は高いが、政治意識は低い」というのが自民党支持層の大半である事は良く理解できるのですが…。例えば、単なる「お祭り騒ぎが好き」という事なのか、この辺の詳しい解説をお願いしたいと思います。	「自治会参加意識が高い」及び「ボランティア活動への参加意識が低い」という記述につきましては、平成 24 年に実施した「深谷市市民意識調査報告書」に基づくものであり、調査にあたり配布・回収したアンケート調査票において、“自治会の活動”と“ボランティア活動”のそれぞれに対する参加状況の設問結果を集計したものになります。 一方、ご指摘いただいた箇所では、各設問の結果であることが読み取れず、イメージが掴みづらい内容となっております。ご指摘を踏まえ、以下の表現に修正いたします。 【37 ページ修正文】 その他、「自治会参加意識が高い」、「ボランティア活動への参加意識が低い」、「子ども会・老人クラブへの参加者が少ない」といった傾向が見られる。 【67 ページ修正文】 市民意識調査では、「ボランティア活動への意識が低い」や「子ども会、老人クラブ参加者が少ない」といった意見が挙げられている。
3	◆30～31 ページ 道路・交通、観光関連施設 ◆37 ページ 史跡・建築物 ◆50 ページ 関連文化財の保存・活用	「中の家」や「惇忠旧宅」の保存改修には、可成りのページ数を割き、素晴らしい情熱を感じますが、そのほかにも、「ホフマン輪窯上屋」の復元（輪窯本体の修復については実施決定と聞いて居ります）とその空間を活用した煉瓦博物館（煉瓦資料館所蔵資料の移転展示に加え、ホフマン輪窯の連続焼成を判りやすく解説したアニメや全国の煉瓦建築物の写真・平面立面図展示等）の整備や、「葦塚直二郎旧宅」（所有者の高い見識に依り、保存状態は極めて良好）への「あかね通り」から枝分かれしたアプローチ道路の整備などが整備対象として挙げられると思います。	本計画は、計画対象エリアである八基地区周辺で、計画期間内（5 年間）で取り組むことを整理したのになりますので、計画対象エリアに含まれない内容につきましては、記載致しておりません。 なお、「日本煉瓦製造株式会社旧煉瓦製造施設」については、現在、保存活用計画の策定を進めているところでございます。本計画と一体的に進めていくことを考えております。
4	◆50 ページ 関連文化財の保存・活用	土・日曜日の 2 日間を「ホフマン窯」を含めて見学できる様に要望したいと考えます。	「日本煉瓦製造株式会社旧煉瓦製造施設」につきましては、施設の老朽化及び耐震性の観点から、来訪者の安全性確保を第一に、一般公開を毎週金曜日のみとさせていただいている所です。 現在、「日本煉瓦製造株式会社旧煉瓦製造施設」については、現在、保存活用計画の策定を進めているところでございます。本計画と一体的に進めていく中で、公開に必要な改修などが完了した後、一般公開日について検討していきたくと考えております。
5	◆50 ページ 関連文化財の保存・活用	配布のパンフレット又は資料に開放日（補足：旧煉瓦製造施設の開放日）を事前にお客様にお知らせした方が良く考えます。	いただいたご指摘を踏まえ、パンフレットの改訂について検討していきます。
6	◆50 ページ 関連文化財の保存・活用	深谷市は駅舎まで「レンガ作り」と PR されていますので、なんとかこの機会に充実した PR をされた方が良く考えます。	本計画の 58 ページ「案内板の設置」及び 60 ページ「対象エリアの情報発信・観光案内」において、案内パネルの設置や深谷駅構内のギャラリースペース、道の駅の活用による情報発信に取り組むこととしています。ご指摘の内容を含めて、本市の魅力を積極的に発信していくことを検討していきます。

7	<p>◆50 ページ 関連文化財の保存・活用</p>	<p>関連文化財施設の一般公開日の統一について 現在、関連文化財施設の一般公開日が一部統一されていないため、市外から目的をもって遠路より土、日、祝日の貴重な時間を費やして訪れた人が十分なサービス享受ができていない状況にある。このような現状を改善し、深谷市の魅力を発信していかなければならない。 例えば、渋沢栄一関連施設として、旧煉瓦製造施設、誠之堂・清風亭、記念館、中の家、尾高惇忠生家等があるが、これらの施設の一般公開日が、市当局の都合により統一されていないため、関連施設の見学目的を果たせず、消化不良で帰ってしまう場合が多く見受けられる。遠路より訪れた人に再度公開日に訪れてくれるよう懇願することは心苦しい。よって、一般公開日の見直しを要望する。</p> <p>○旧煉瓦製造施設…毎週金曜日のみ開館 上記、施設の一般公開日を、土、日、祝日とする。 このように改善することにより、市外から訪れた人々が関連施設を一回で見学することができ、深谷市の歴史認識への理解を深める効果が期待できるのではないのでしょうか。</p>	<p>関連文化財施設の一般公開につきましては、施設の老朽化及び耐震性、所有権等の観点から、各施設の状況を踏まえた対応をしています。 市内の渋沢栄一関連施設の一般公開日については、各施設の整備状況などを考慮しながら統一に向け調整していきたいと考えております。</p>
8	<p>◆36 ページ 市民意識 ◆57 ページ 回遊性創出</p>	<p>「利用者の増加のためには、くるリンバスが集落の中まで運行される事が望まれる」とされて居りますが、昨年10月17日付け「市長への手紙」にて小生が提案させて頂きました『既存のくるリンバスのルートに基づき変更改良した「澁澤栄一翁ゆかりのコースの運行」について「澁澤栄一翁ゆかりのコース」を運行させたら如何でしょうか』という文書に対して11月13日付けで戴きました市長名による回答書の内容： 『現在、コミュニティバス「くるリン」は、市内の高齢者や運転免許証を持たない交通弱者を対象として、通院、買い物及び公共施設等の利用及び地域間の移動手段の確保を目的として運行しております。ご提案の「澁澤栄一翁ゆかりのコース」の運行でございますが、コミュニティバスの運行目的から外れており、コースの変更は大変厳しいものと考えております。ご提案のような観光バスルートについては、本来、民間事業者が需要を考慮し設定するものと考えており、今のところ市が観光バスを運営する考えはございませんが、今年度「中の家」等の整備活用計画を策定しており、その中で見学者の回遊性の向上につきましても検討してまいります。』 との記述から考えますと、『あくまでもくるリンバスの積極利用ではなく、全く別物の民営による回遊バスの運行を検討する』と明言すべきかと考えますが、如何でしょうか。 前述のアクセス道路整備計画と同様、回遊バスのルート設定に、伊勢崎市と連携し、境島村の「町田邸～田島弥平旧宅」とその周辺の景観保存地区までの延伸を検討する必要があるかと考えます。 (世界遺産の一つが、我が深谷市にある…? という有り難い誤解を戴ける様な恵まれた立地条件を利用しない手はないと思います。)</p>	<p>「利用者の増加のためには、くるリンバスが集落の中まで運行されることが望まれる」という記述につきましては、「深谷市都市計画マスタープラン（平成24年3月）」の策定にあたり実施した地域別懇談会（北部地域）にて出された意見になります。 ご指摘にありますとおり、コミュニティバス「くるリン」につきましては、市内の高齢者や運転免許証を持たない交通弱者を対象として、通院、買い物及び公共施設等の利用及び地域間の移動手段の確保を目的として運行しているものであり、本計画に関連した「くるリン」の積極的利用は厳しいものと考えております。 その上で、本計画の57ページ「回遊性創出」では、別の周遊バスの運行について検討していく観点から、“観光拠点を巡る移動手段への需要増加に対応し、駅からのアクセス及び対象エリア内を周遊するバスの運行や観光タクシーの利用を図る”としています。</p>
9	<p>◆58 ページ 案内板の設置</p>	<p>駅前にも「レンガの歴史」等の説明が欲しいと考えます。</p>	<p>本計画の58ページ「案内板の設置」及び60ページ「対象エリアの情報発信・観光案内」において、案内パネルの設置や深谷駅構内のギャラリースペースの活用による情報発信に取り組むこととしております。ご指摘の内容を含めて、本市の魅力を積極的に発信していくことを検討していきます。</p>
10	<p>◆58 ページ 案内板の設置</p>	<p>「論語の里」と称する以上、案内板や道標と共に、栄一翁や惇忠翁が好んだ論語の一節（解説付き）を飾った石碑或いは金属プレートの設置を是非検討項目に加えて戴きたいと思っております。</p>	<p>自動車及び散策者に向けた誘導案内パネルやサインの設置にあたっては、見やすさを検討するとともに、論語の一節を始めとした地域の魅力についても発信できるようなデザインとすることも必要と考えております。</p>
11	<p>◆36 ページ 市民意識 ◆45 ページ 各取り組みの展開イメージ ◆54 ページ アクセス道路の整備 ◆66 ページ 友好都市など周辺都市との連携</p>	<p>上敷免「煉瓦工場」までのアクセス道路は、全国に誇る程の整備がなされている「あかね通り」の存在が強烈で、これを更なる整備計画に利用しない手は無事は論を待たないと思っております。 この「あかね通り」を小山川堤防まで延伸し、堤防上の道路を整備する事で、大寄公民館（清風亭、誠至堂）までのサイクリングロードと歩行者専用道路は確保可能かと考えますが、それから先の八基地区までのルートについての具体的な検討は、今後にお任せしたいと思います。 なお、アクセス道路整備計画の中に、伊勢崎市と連携し、境島村の「町田邸～田島弥平旧宅」とその周辺の景観保存地区までの整備計画と整合性を取る必要があるかと考えます。 (因みに町田邸は、中の家から田島邸に向かうルートに面してあり、城の大手門を思わせるほど巨大な2階建て入母屋造りの長屋門があり、佐倉市の国立歴史民族博物館に「上州の大規模養蚕農家」として写真展示された事や建築の専門誌に紹介された事もあります。)</p>	<p>「あかね通り」に関しては、新設整備は大変厳しい所ですが、既存の道路を活かしてルートを設定するという観点では、ご指摘にある堤防までの延伸に関しては可能だと考えます。 整備に関して、引き続き検討を進めるとともに、本計画エリアと田島弥平旧宅間のアクセス道路については、ルート設定や表示看板の整備などについて、伊勢崎市と連携を図っていきたいと考えております。</p>